

13機関  
が参集

# ヤングケアラー支援体制を検討 連携深め、心に寄り添う

大人と同じような責任を負い、家事や家族の世話などを行う18歳未満の子ども・ヤングケアラー。家族のケアに時間を奪われ、勉強や友達との交流など、本来守られるべき子どもの権利が守られないことが問題となっています。

関が集まる「ヤングケアラー支援体制検討会」を3回にわたり開催。小・中学校、高校、福祉・介護・行政機関の関係者で、情報共有の仕組みやヤングケアラーの負担軽減につながる取り組みなどを検討してきました。

の存在を正しく認識し、これまで以上にさまざまな角度から子どもに寄り添う体制づくりを進めます。  
地域のみなさんも、心配事や気付きがありましたら、ささいなことでもご相談ください。  
子ども家庭センター  
☎36・3790

SOSを見逃さないで。  
ヤングケアラーかもしれません



▶ヤングケアラーの詳細や国の相談窓口の情報はこちら



## “探し出す”ではなく、“気づき、気に掛けること”が大切

私が中学3年生の春に母が突然仕事を辞め、家にいるようになりました。家事もできず、「死にたい」と口にする母。うつ病と診断され、仕事を休めない父に代わって、母の病院への付き添いをしたり食事の支度をしたり。この状態がいつまで続くのかと不安と孤独感でいっぱいでした。当時は、このつらさを誰かに知ってほしい反面、精神疾患の母を抱える事実を友人や周りの人に知られまいと隠すのに必死。その葛藤がとにかく苦しかったです。

家族の支え合いも、もちろん重要なことです。ただ、私の場合、学校の先生やお医者さん、看護師さんが私の様子に気づき、声を掛けてくれたら救われたのではと感じています。周りの大人は、正しい理解と想像力を持ち、子どもを見守ってほしいです。声を掛け、関心があることが伝われば、救われる子どももいるはずですよ。

## Voice 経験者の声

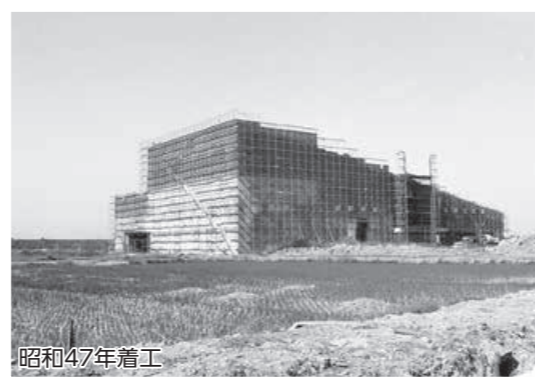
支援体制検討会でも講演した  
長岡崇徳大学教授  
板山 稔 さん



## 市立劇場50周年

新たな感動をここから

## さあ、次のステージへ

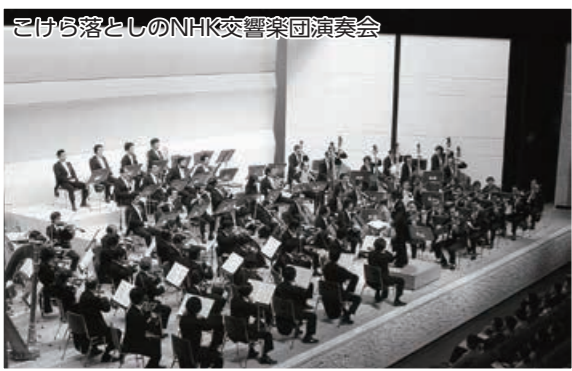


多様な舞台を演出



長岡市立劇場は、令和5年に開館50周年を迎えます。県内トップクラスの1,500の客席と多彩な舞台設備を備えたホールは、優れた音楽、演劇、舞台などの「鑑賞の場」、且つその成果を披露する「晴れ舞台」として長年市民に愛されてきました。これまでの歩み、そして次の50年に向けた取り組みを紹介します。

長岡市芸術文化振興財団 ☎29・7715、  
文化振興課 ☎32・5110



開館記念公演



～50周年の歩みを  
ポスターで振り返る～

来館したトップスターや海外アーティストなどのポスターを偶数月に入れ替え、計140点を劇場ロビーに展示します。  
◎来年3月31日(日)まで

